

議決事項

件名	提案理由	審議の状況	採決の次第
報告第22号 垂水市青少年育成指導委員の委嘱について	垂水市青少年育成指導委員の交代に伴う委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。	特記事項なし	
議案第37号 平成27年度社会教育功労者の決定について	垂水市社会教育関係表彰規程に基づき、平成27年度社会教育功労者を決定するものである。	特記事項なし	承認

平成27年度第8回教育委員会定例会出席者

日時及び場所	出席者	
<p>平成27年11月10日（火）</p> <p>午後2時00分</p> <p>↓</p> <p>午後3時05分</p> <p>第2研修室</p>	<p>教育委員長 野村 繼治</p> <p>教育委員 田原 正人</p> <p>教育委員 中谷 いつみ</p> <p>教育委員 葛迫 幸平</p> <p>教育長 長濱 重光</p>	<p>教育総務課長 保久上 光昭</p> <p>学校教育課長 下江 嘉誉</p> <p>社会教育課長 森山 博之</p>

会 議 要 旨

1 開 会

定刻、定足数に達しており、平成27年度第8回教育委員会定例会を開会した。
議案第37号は非公開で審議する旨、委員長から発議があり、全会一致で議決された。

2 平成27年度第7回定例会会議録の承認 承認

3 議 事

報告第 22 号 垂水市青少年育成指導委員の委嘱について
議案第 37 号 平成 27 年度社会教育功労者の決定について

4 その他

5 委員報告

6 閉 会

議事内容等

3 議 事	<p>報告第 22 号 垂水市青少年育成指導委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告した。 (質疑なし)</p> <p>議案第 37 号 平成 27 年度社会教育功労者の決定について (非公開)</p>
4 その他	なし
5 報 告	委員報告
委員長	教育委員の報告に入る。
委員長	<p>1 「水之上小学校計画合同訪問について」 10月19日月曜日、水之上小学校の計画合同訪問に参加した。教育事務所から指導のプロである10名の先生方に大挙しておいでいただいた。これを大局的に考えてみたときに、学校全体の活動状況を総合的にチェックされるということであるが、こういことで教育現場の実践的、理想的なあり方について指導が受けられ、高度な人材育成が図られるのだと思う。また、全国一律の教育の取組みとそのあり方がしっかりと確保され、ひいては世界に冠たる我が国の教育の基盤が形成され、若者を育成しているのだと感じ入った。</p> <p>2 「国民文化祭について」 10月31日開幕の国民文化祭の参加人員、事業規模のいずれをとっても、本市にとって前代未聞の大イベントであった。細かく計画されたスケジュールで、周到に展開されていた。開会式、和田コンのオープニング式と表彰式、加来耕三氏の記念講演会に続いての歴史街道、海援隊の「ふるさとの恵み・食のトークショー&ライブ」が催され、それによきこい祭りとの激動の2日間であった。忘れてならないのは、表舞台をしっかりと支えてくださった縁の下の力の皆さんである。おもてなし少女・少年隊や協力いただいた教職員ボランティア、職員に感謝申し上げたい。やればできるということである。</p>
田原委員	<p>1 「水之上小学校計画合同訪問について」 10月19日の水之上小学校の計画合同訪問であるが、学校にとってもいい研修だった。学校規模が適当であり、指導主事の先生方に1時間貼り付くようにして見ていただき詳しい指導もあつて感心した。先生方もいつもより張り切って取り組み、子どもたちも話し合いとか発表に力を入</p>

田原委員

れていた。学力向上については、のんびりおっとりした、あまり競争心のない地域でありなかなかであるが、教職員はまとまっており、表現力とか発表力、思考力を磨く授業への改善が望まれる。学力テストでは無答が多いということだったので、放課後とか夏休みとかの長期休業を活用して、過去問をやらせて慣れさせることが大事ではないか。もう一つ大きな問題は、親の無関心ということである。実態を知らせ、宅習に協力してもらう取組みも大事である。

2 「国民文化祭について」

国文祭では、あまりの人の多さで見ることができないものがあった。盛り上がり、垂水がいつべんに元気をもらった感じがした。小さなまちでもこんなことができるというエネルギーをもらった日々だった。すべての方の努力の賜物と感謝し、うれしくなることばかりであった。

3 「水之上小学校の心の教育推進委員会について」

10月29日、水之上小学校で開かれた心の教育推進委員会に出席した。その中で、テレビが主だと思うがメディアを見る時間が長く寝る時間が決まっていなくて朝起きれない等、生活習慣が乱れていることで起きる現象が見られるということが出ていた。ほかの学校も同様だと思われるので、心がけていかねばと思った。また、少ない児童数にもかかわらず携帯電話・スマホ所持児童が17人、LINE利用経験者9人、フィルタリング設定なし9人といった報告があり、小さな田舎の学校でも一歩間違えば犯罪に巻き込まれる危険あると思った。

中谷委員

1 「柘原小学校の研究公開について」

柘原小学校の研究公開に参加した。研究課題が「関わり合う力を育てる特別活動のあり方、自ら気づき、考える、話し合い活動を通して」というものであった。子どもたちが話し合いの中で復唱法というものを取り入れて、ほかの児童の発表をうなずきながら聞き、その発表内容を復唱して自分が発表するという形である。聞き手は聴き取る力を身につけることができるし、発表する子は内容を肯定してもらえるので自分の意見を大切にしてくれると感ずることができるのである。実際に、児童一人ひとりが目を輝かせて授業に入り込んでいて、とてもすばらしかった。この関わり合う力というのが身につけていけば、友だちとの関係はもちろん、各教科の学力向上、生き抜いていく力にもきつとなっていくことだろうと思いとてもうれしくなった。

2 「国民文化祭について」

国文祭は、三味線、歌声、踊り、ギター、拍手、笑い声、手拍子、たくさんの方々、おもてなし少女・少年隊の子どもたち、素晴らしい絵画、賑やかな店、太鼓等など、どんなにかたくさんの方が結集して、国民文化祭並びに市民文化祭が終わった。教育委員会、市役所職員、一人ひとりが心をつなげて、いい国文祭になったと思う。「垂水はいい町だなあ」と小中音楽会の講師がおっしゃったとおりに思った。その垂水に住む大人も子どもも、お互いの存在をしっかりと受け止めて生活していった

中谷委員	ら、いじめのない、ゆったりとした、豊かな安心安全な町になると確認できた。
葛迫委員	<p>1 「水之上小学校計画合同訪問について」</p> <p>10月19日、水之上小学校の計画合同訪問に参加し、いろいろな勉強をさせていただいた。ユニバーサルデザインを取り入れた授業というのが初めてだった。ユニバーサルデザインということで、児童全員が分かるように一人ひとりに対して先生がはっきりとゆっくり話す、そういった指導をされていた。写真や絵を使いながらというのはいろんなところであるのだが、ユニバーサルデザインの手法を取り入れることで、学力向上につながるということはいいことだ。教育事務所の先生の意見の中で、子どもたちの意見やもっと考える時間があったらいいのにということがあったが、なるほどと勉強になった。</p> <p>2 「国民文化祭について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国文祭は、大きな賑やかな文化祭になって良かった。おもてなし少女・少年隊、迎える側のおもてなしの仕方、ボランティアの方々、各学校単位で育て会場を埋め尽くしたきれいな花が迎えてくれていた。最終の土曜日、日曜日は少ないかなと思い、シャトルバスに乗って1周してみた。回るだけではなく何かやろうと思い、ギャラリートークをして1周した。このバスがなければ、市外からの方はタクシーを利用したりするしか交通手段がないので良かったと思う。ただ、乗る場所が分かりにくかったかなという意見が聞かれた。 ・ 主催事業の中で一番関心を抱いた事業だった「ぐりぶ一応援部門」の子どもたちの作品は、いっぱい集まって大変な苦勞をされたと思う。これだけの規模で作品を集め展覧するというのはこれまで見たことがなく、今後も続けていければいいなと思っている。その作品を見ていて、色のバラツキが見られ子どもたちの発育状況とか悩みとか感じられる絵もあり、その訴えを感じ取れたらと思うことだった。また、美術館に通う機会に恵まれている鹿児島市及びその周辺地域の子どもたちの作品と、垂水市や大隅地域の子どもたちの作品に、色彩感覚の違いが感じられた。そのようなことから、図画工作という教科は大事だと思った。 <p>3 「美術教育の重要性に関する要望書の内容について」</p> <p>日本美術家連盟から毎年機関紙でニュースが送られてくるのだが、中央教育審議会に美術教育の重要性に関する要望書を提出して、それについて文部科学省教科調査官が寄稿されておりご紹介すると、「美術教育は、新しい時代に必要となる資質・能力の育成」に資する教科、科目であるとの内容であった。(別途資料配付)先ほど申し上げた子どもたちの内面を探るということは若干違うが、美術教育の必要性が考えられているのだなと思うことだった。</p>
教育長	<p>1 「PTA母親委員会との意見交換会について」</p> <p>10月28日に、市長ともども小・中・高のPTA母親委員会との意見交</p>

換会があった。それぞれの地域が抱える課題等を寄せていただき、我々がそれに対する考えを述べる意見交換会であった。教育長に就任して1回目は批判的な声が多かった。施設の面でも学習の面でもいろいろあったが、今年は学校や教育委員会に対し要望的なものはあったが批判的なものはなく、半分以上は評価してくださっている意見であったように感じた。それは、小・中の管理職を含め教職員が、頑張ってくださっているからだと思う。「わくわくどきどき！夢教室」のオペラは非常に評価していただいた。垂水の子どもたちはなかなか見る機会のない中で、年1回でも実施していただけるのはありがたいとのことだった。垂水中央中学校の教育環境整備も高く評価していただき、子どもたちの頑張りも評価していただいた。その一方で、施設面では、境小学校のタイヤが積み重ねられ利用されていない施設の撤去の要望とかもあった。垂水市では厚労省管轄の児童クラブは垂水小学校と水之上小学校にあるが、学童保育がまだないので設置要望があった。現状に満足はしてはいるが、取組みをいい方向で評価してくださっているのだなと意を強くしたところだ。

2 「国民文化祭について」

- ・ 国文祭に関しては自分自身もいろいろと思いがちあり、職員と取り組んできた。実行委員会で「垂水の底力を見せましょう」と発言したが、一堂に会して一つのチームとして動けばすごい力が発揮できるのをこれまでも経験しており、今回も実現できたのはうれしいことであった。準備段階から喧々譁々意見交換もしたが、職員の頑張り感謝している。また、各学校で育てた花を会場まで運んでくださった建設業組合、さらには、教職員の皆さんの支えがあったからできたということは忘れてはならない。
- ・ 県内外から多くの皆さんにおいでいただき垂水をアピールするいい機会ではあるが、まずは垂水市民の皆さんに喜んで楽しんでいただかなければと思っていたので、それが実現できたのではないかなと思う。
- ・ 和田コンの関係では、和田英作・香苗の知名度を瀬戸口藤吉翁並みに上げていく、本市出身であることを知ってもらいたい機会であった。
- ・ おもてなし少女・少年隊の存在は大きかった。11月7日土曜日に森山課長、有馬団長、2人の小学生と榊財宝の水迫社長を訪ねた。社長の前で感謝の気持ちを綴った文章を読み上げると、社長も非常に感激された様子が印象的であった。おもてなし少女・少年隊については考えていたことが二つあり、ひとつはおもてなしの心を学んで欲しいということ、次に垂水の文化、歴史、産業、観光を学ぶことの大切さを知ることであったが、いずれも実現できたのではないかなと思っている。こうしていろんな角度から見ると、多くの来場者があったこと以上に、市民に楽しい時間を過ごしていただけたのかなと感じている。2020年には国体が開催されるが、文化とスポーツの違いはあるが、今回の経験を市全体として活かしていかなければいけないと考える。

- ・ 実行委員会で葛迫委員が「花で来場者をお迎えしたらどうか」と提案していただいて、各学校100プランターずつ作っていただいた。それを実現させて各会場が華やかになり、花が映えていた。いいアイデアを出していただいたことに感謝している。

教育総務課長
学校教育課長
社会教育課長

10月10日から11月10日までの主な行事等について報告。
併せて、12月10日までの予定についてお知らせした。

6 閉 会